<b>事</b> 3	Z/2 = +	¥ 47	21		*177=	事業評価シ 			新規	継続	変史			1	+0 业	±⊞	I	/7 <del>.</del>	(事 7戸 7:1	L≐⊞	
事務事業名 会計名称			敬老会の開催     予算事業名       一般会計     予 算 科 目     3 款 1						項 2			担 当 課 目 所属長名				健康福祉課 久芳 義則					
総合計画での位置がけ			誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち						担当責任者名			責任者名	(記入者) 重山 大輔								
				+0 44 TM -= 74			\				\_ ^1		1		括番号(	内線)					
	業の性	主格		内部管理事務			法定事務				法令	根拠等	+	人福祉	<u>上法</u> 年度】	ㅠ+	. 21 <sup>左</sup>	 C <del>庇</del>			
事業の対象			町内の75歳以上の高齢者						実 施	期間			平皮』 年度】	平成平成		F烃  F度(予定)		•	没定なし		
														#S ]	十反』	十八人		F.反( ]′ 足)		-	文化なり
事;	業の目	3 的	タ年に:	わたり社会につ	< L	てきた高齢者	そを勘惑し.	長寿:	を祝うた	- <i>t</i> h	事業(	の内容						呈や演芸な 参加できな			
<b>*</b> :	<del>*</del> •// =	נא ב	<i>9</i> +10	かたり社会にフ	\ 0		で収妥し、	区内	217L J N	_0,	子木、	27 F 3 T	宅	こ記念	な品をお	送りする	る・	<b>У</b> М СС 4	.13. 210	-/110	10 (184
	策の具										策の具 取り組み										
取り約	組み(当	当初)									次評価										
	事	業費	<u> </u>	び 財 源 内	引割	7	(千円)	)				事	業	活	動 σ.	)実	績 (	活 動	指標	Ę )	
	項	目		20 年度決算			9月末の執行		21	年度決算	I		目		単位			21 年度予定			21 年度実績
事		接事業				3,239		148		2,971	#5 #2 🛆	<del>∕</del>	<b>.</b>		ı			045		247	247
業 費	<u>人</u> 合	件	費 計			727 3,966		727 875		3,698	<b>蚁</b> 老会?	参加人数	X		人			315		317	317
n.t		庫支出	金			0,000				0,000											
財 源	県																				
内訳	<u>地</u> そ	<u>方</u> の	債 他																		
n/\	_	般 財	源			3,966	3,	966		3,966											
事		<u>人 工</u> 人件費 •			-	0.10 7,274		274		0.10 7,274											
務量		へ 1+ 買・ 甫助事業				1,214	7,	,274		7,274											
		‡費( ×				727.40	727	7.40		727.40											
		向	こう 5 年	F間の直接事業費	費の打	佳移			22 年度		23 年月		24	年度		25 年月		26 年度		5年間	の合計
				(千円)					3,	760		,810			860		,910		960	_	19,300
l ,	<b></b>	#6	#5 #2 🛆	<del>\$</del> +□ <del> </del> <del> </del>						区分	年度	20	年月	芰	21	年度	22	年度		目標 2	23 年度
·	以未拍的	<del></del>	<b>蚁</b> 仑云:	参加者数				1		実	績				3	17					
			タ年に:	わたり社会につ	< L.	てきた高齢ま	チを勘感し.	Ę.										_			
	指標設気 の考えた		寿を祝	うためいかに多	くの	高齢者を祝え	たかという	Ë		目	標				3	15		320		325	5
			こで参	加者数を指標と	9 5	0					120										
	度の課題																				
対応状況	兄(途中	P経過)																			
			п	的の妥当性	5 4	施策の目的そのも 施策の目的に沿っ				4								で敬老会をている。行			
		妥当性	H	切の女目性	2 1	施策の目的に全く	くそぐわない。			4	合計	点が				等、今	後の敬	老会の在り	方につ	これで	対する必
			市民	ニーズへの対応	5 4 3	市民ニーズに直結				4		15 : A 13 : B		В		要があ	<b>ం</b> .				
事	自	~ 111	1,100		1	市民ニーズを捉え	たものと言えない				8 ~	9 : C 7 : D			自						
	己		市の	)関与の妥当性	4 3		すべきものである は妥当と判断できる			3		4 : E			己						
	評				1 5	市が関与すべきで 市民がおおいに満									ت						
	価		事	業 の 効 果	3 2	市民がほぼ満足し				4	合討	点が			の						
務					5	市民が満足してい 具体策が明確で、	<u>\ない。</u> 成果実績が向上し	している	b.			15 : A									
	担	有効性	成果	具向上の可能性	3 2		成果の向上が期待		, ,	4	10 ~ 1	13 : B 9 : C		В	課						
	当				5 4	施策推進への貢献					5 ~	7 : D 4 : E			題						
	責		施贫	<b>策への貢献度</b>	3 2 1	施策推進に必要で 施策推進につなか				3					足						
=	任		<b></b>	段の最適性	5 4 3		<b>ン、新しい活動指</b> 権	票を設定	<b>ごできる</b> 。	3					認						
事	者		7 1	以 以 取 旭 庄	2	活動指標の実績が	が上がらず、効率的			3	合計	点が									
	$\overline{}$	効率性		スト効率	5 4 3		人上の成果実績の向 080%以上の実績		-	3		15 : A 13 : B		C	戠						
					2 1 5		て、予算額が過大で √、サービスとの/		が良い			9 : C 7 : D									
			受益	着負担の適正	4 3 2	適当な受益者負担	旦と判断できる。			3	3 ~	4 : E									
業					5	コスト効率が悪く 施策の目的そのも	<u>、受益者以外の負</u> このである。	負担が大	<b>さい</b> 。				+			高齢化	が進む	中、現状の	ままま	『施も『	艮界がでて
			目的	的の妥当性	4 3 2	施策の目的に沿っ				4	合計	点が				くる。	会場に	ついても入今後開催手	、館でき	きなくな	よる可能性
					5 4	施策の目的に全く 市民ニーズに直結	きする。					15 : A		_		る。 る。	, o	,这时连寸	テスマノリン	ν <sup>Η</sup> 1 (1, 1)	
	_	妥当性	市民	ニーズへの対応	3 2 1	受益者のニーズは 市民ニーズを捉え	t捉えている。 たものと言えない	١		3	8 ~	13 : B 9 : C		В	所						
စ	次		+-	間トッセンル	5 4	市が積極的に関与	すべきものである	5.				7 : D 4 : E									
			т 0,	)関与の妥当性	2 1	今のところ関与は 市が関与すべきて	<b>ない。</b>	۰ د		3					属						
	評		事	業の効果	5 4 3	市民がおおいに満 市民がほぼ満足し				3					長						
	価			/// //	ž 1	市民が満足してい	ない。	.711-				点が			Ø						
	$\overline{}$	有効性	成果	具向上の可能性	3	具体策が明確で、具体策が明確で、	成果実績が向上し 成果の向上が期待			3	10 ~ 1	15 : A 13 : B		В							
評	所				1 5	問題を解決できる 施策推進への貢献					5 ~	9 : C 7 : D			課						
			施贸	策への貢献度	4 3 2	施策推進に必要で	<b>ご</b> ある。			4	3 ~	4 : E			題						
	属				5	施策推進につなか 活動指標が向上し		票を設定	<b>ごできる。</b>				-								
	長		手具	段の最適性	3 2	計画・手段が効率		h+	1 · ·	3	合計	点が			認						
価	$\smile$	٠٠٠ - يو			1 5 4	予算額内で目標以	ヾ上がらず、効率的 ↓上の成果実績の向	句上が見	られた。			15 : A			戠						
		効率性		スト効率	3 2	予算額内で目標の 成果実績に対して			げた。	3	8 ~	13 : B 9 : C		C							
			57 24	・	5 4	コスト効率が良く	(、サービスとの/		くが良い。			7 : D 4 : E									
			受益	着負担の適正	3 2 1	適当な受益者負担 コスト効率が悪く	3と判断できる。 (、受益者以外の負	負担が大	<u>てき</u> い。	3											
								/\	v				-								

## 平成 21 年度 事務事業評価シート(裏面) 新規 継続 変更

一般ソフト事業 施設等維持管理 行政事務

_		敬老会の開催	予算事業名	0 =====================================	1 TE 0	担当		健康福祉課					
	計 名 称 合計画での	一般会計 誰もが安心して暮らせる健康福祉の	予算科目	3 款	1 項 2	目 所属長担当責任者名							
位	置づけ	誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち <u>担当責任者名(記入者)</u> 重山 大輔 電話番号(内線)											
事	業の性格	内部管理事務	法定事務		法令根拠等	老人福祉法							
車	業の対象	町内の75歳以上の高齢者			実施期間	【開始年度】	平成	21 年度					
<del></del>	果の対象	可内の / 5 成以上の高齢者			关 心 朔 间	【終了年度】	平成	年度(予定) 設定な	ìU				
事	業の目的	多年にわたり社会につくしてきた高	齢者を敬愛し、長寿	を祝うため。	長寿者に対してお祝い状の贈呈や演芸などを行う。参加者に対 事業の内容 しては弁当と記念品を渡し、参加できなかった方に対しては自 宅に記念品をお送りする・								
	善策の具体的 0組み(当初)				情策の具体的 取り組み に次評価後)								
(担当責任者)	自 妥当性 己 有効性	市の関与の妥当性 3 事 業 の 効 果 4	В			B     4 目 的 の 妥 当 性       3 市民ニーズへの対応     3 市の関与の妥当性       3 事業の効果     3 成果向上の可能性       4 施策への貢献度     3 手段の最適性							
	価 効率性		С										
TE	左 町主 <i>供</i>	受益者負担の適正 3 会を実施している市町は少なくなっ	てきてい		古典ルル	3 受益者負担の適正 高齢化が進む中、現状のまま実施も限界がでてくる。会場についる。							
る	。行政区で実施し る必要がある。	て頂く等、今後の敬老会の在り方に	ついて検討 自己 に事 的に 一次 正部 推進	評価は、担当者が 業推進をかどうかを たもの。 評価は、担当者の にのを 評価は、担当者の でのでは でのでは でのでである。	も入館で である。 注果 評	できなくなる可能	能性もで 	てくる。今後開催手段の検討が必要	要課題認識				
施策を踏まえた判断	二次評価	- 次評価結果より以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 - 次評価結果のとおり事業継続と判断する。 - 次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 - 次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。 - 次評価をやり直し、月日までに事務局へ											
Δ/1	Ιщ						提出すること。						
		市民サービスに直結する主	要事業のため、評価そ	のものを行政評価	委員会に諮ること	とする。							
		小部評価委員会で評価する。   一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。											
							<b>┤</b>	答申期限: 月 日					
		一次評価結果のとおり事業	飛正でがめて、17政部	女貝云に沿るこ	ここりる。		<u> </u>						
外部評価委員会の判断	外部評価	参加率も低く、老人の生活スタイルも多様化しており、抜本的な実施内容の見直し及び廃止も含め検討が必要である。											
		事業の方向性							$\neg$				
	経営者会議の最終判断	事業の方向性  さらに重点化する。  現状のまま継続する。  右記の点を見直しの上  事業の縮小を検討する  事業の休止、廃止を検	•	には妥当性	ち出席者が3割利・効率性が低いと ての福祉向上にこ	ヒ思われる。高値	齢者の方	町主催の事業として行っていく 々のニーズや実情に即し、多く 、高齢者福祉事業として内容の					
				l l				Į.					